

異文化理解－ヨーロッパ編 I

科目責任者 小川和彦
学年・学期 1学年・1学期

I. 前文

近年さまざまな分野でのグローバル化により、日本と世界の距離は飛躍的に短くなった。しかし異文化理解に関しては、日本と世界の距離は旧態依然である。たとえ日本人が日本の学校で外国語を一生懸命に学んで、ある程度その外国語ができるようになって、相手に自分の意思をうまく伝えられないことがよくある。外国人もまた日本で同じような経験をしている。これは相互の文化理解が欠けているからだ。

この点を補うため、私自身が海外で体験したことを受講生に直接伝えたい。ヨーロッパの町の歴史や文化、芸術に関して、DVDや文献、写真、ネット辞典ウィキペディア等を用いて説明を行う。自分達が今まで知らなかった異文化の存在を認め、理解するようになれば、その知識を海外研修において、あるいはグローバル化した今日の日本で役立てることが可能になる。「異文化理解」という授業はその第一歩である。

II. 担当教員

非常勤講師 小川和彦

III. 一般学習目標

グローバル化した現代における日本とヨーロッパEU地域の間の異文化理解の道を探る。

IV. 学修の到達目標

- 1 異文化としてのヨーロッパ文化の本質を理解し、相互理解の可能性を探る。
- 2 将来海外研修することを想定しつつ、異文化との共存について考える。
- 3 写真・DVD等を用いて、講義の中で異文化を疑似体験する。
- 4 地図の判読、インターネットの利用方法等、異文化関係の資料の使い方の基礎を学ぶ。

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者
1	4	15	水	4	「異文化理解－ヨーロッパ編」を学ぶにあたって 1 履修上の注意と課題の書き方の説明。 2 私が出会った「異文化」について。	小川和彦
2		22	水	4	文化が交わる場所	小川和彦
3	5	13	水	4	ベルリンはドイツではない?－外国人との共存。	小川和彦
4		20	水	4	ベルリンと日本の近年を比較する。	小川和彦
5		27	水	4	スイス。歴史と現状。スイスで有名なものは何か。	小川和彦
6	6	3	水	4	スイスとベルギーの公用語事情。日本の外国語教育と比較検討する。	小川和彦
7		10	水	4	オランダ。歴史的な事と生活について。	小川和彦
8		17	水	4	日本とオランダの歴史的な関係について。	小川和彦
9		17	水	5	デュッセルドルフ --- ドイツの日本人町	小川和彦

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
10	6	24	水	4	欧米と日本の食と文化, 飲み物文化を比較する。	小 川 和 彦
11	7	1	水	4	まとめ。 口頭発表と最終課題提出。	

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

試験期間の試験はせずに、提出された評価用課題と口頭発表による評価。毎回授業のまとめを提出、次回授業始まりに前回のまとめを口頭発表。これは評価用課題の下書きです。授業ごとの宿題は必ず提出すること。一回分300～400字、パソコン使用。最終回に、テーマを一つ選択して最終口頭発表とレポート提出を求めます。評価基準：毎回の宿題：30%、時間ごとの口頭発表：30%、最終回の口頭発表と最終レポート：40% 合計100%となります。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書：なし

参考書：1 「地球の歩き方」(ヨーロッパに関するもの, 最新号)

2 ウィキペディア等のネット辞典

(スマートフォン, 端末タブレット, PCのいずれかを持参)

VIII. 質問への対応方法

質問時間 : 水曜日授業終了後。事前にお問い合わせをとり下さい。アポイントがある場合、他の時間も受付可能です。

携帯メール : og49-peterailonamkaz@docomo.ne.jp 携帯または大学のアドレスから送信をお願いします。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回提出の事前，事後学習まとめをそのつど返却。必要な場合は赤入れによる添削もあり。
なお通常は口頭コメントを中心に行なう。

XI. 求められる事前学習，事後学習

講義計画書とシラバスを参考に，事前学習として各回の内容を300～400字でまとめ，授業時に発表する。

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）